



文 と え

水 清 公 子

私の人生

娘が同志社へ勉学の目的で、郷里を出ることを両親が賛成したのを幸に、自分もやっている絵の研究のために学校の近くに居をかまへ、娘は同志社へ、私は岡崎の関西美術院へと母子学生の人生を歩み出したのは三十有年前のこと。娘が大学在学中にハントレー教授の一家から米国の家庭を親しく見たことは、娘にも私にもよい勉強であった。二人の孫も同志社幼稚園に育ち、私の家庭は同志社の色が深くしみついた。作品はいつも生活の中から生れて来る。娘の学生時代、孫の幼児時代、私の所属する展覧会、年々の出品作はそこから出来る。私は色彩が楽しみたいので花や、果物をよく描く。今年の二紀会展の出品作『ガーデンプール』は、都ホテルのプール付近の色彩の面白さにひかれて製作したが、プールサイドにいろいろ群集の中の一団に家族を入れた。私は自分の夢の中に生きぬきたいと思っている。毎日筆をとって。

(二紀会会員)